



第26回 東京都市大学横浜祭

煌めく横浜祭



2022年度 横浜祭実行委員会会長

メディア情報学部 情報システム学科 3年 井上 優太

第26回横浜祭は、対面とオンラインを併用したハイブリッド形式にて開催されました。また、対面での開催は2019年の第23回以来、3年ぶりとなりました。今年の横浜祭のテーマは、「Sparkle」でした。このテーマには、「新型コロナウイルスの影響で失ったキャンパスでの学生の輝きを取り戻し、明るく煌めきのある学園祭を作り上げたい。」といった願いが込められています。

第26回横浜祭実行委員会のメンバーは、全員が対面での学園祭を経験しておらず、ましてや部員数は現2、3年生合わせて一桁台、コロナがいつ収束するのかわからないといった先行きが見えない状況の中で、準備を始めました。そんな中、上部特殊団体をはじめとする課外活動団体に所属している方々や卒業生の方々が、当日の運営以外にも、準備段階から横浜祭実行委員会へのサポートをしていただきました。こうした様々な人から支えられたことで、

今年の横浜祭を実現することができました。

当日は、2日間延べ1,400人ほどの方々に来場していただきました。中でも、講演会企画である「お笑いライブ」は、ライブ配信会場のチケットが完売になるほどの大盛況となりました。また、学生食堂では、横浜産の野菜が使用された「地域サンド」、ステージではキャンパスのある都筑区で活動されている音楽団体の方々が出演され、横浜祭の真骨頂でもある「地域密着型の学園祭」を実現することができました。

最後になりますが、第26回横浜祭にご来場・ご視聴いただいた皆様、横浜祭実行委員会のメンバーや、準備や運営に携わっていただいたすべての皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。11月に開催される世田谷祭、そして来年の第27回横浜祭にもご参加いただけたら嬉しいです。

事務局だより

今年4月より2期目の学生部長を拝命し、合わせて後援会事務局長を務めさせていただいております。この一年間の後援会活動につきまして、簡単ではございますが、ご報告申し上げます。

後援会では、一昨年度から続くコロナ禍のため、いろいろな活動を制限せざるを得ない状況の中、課外活動援助、学生顕彰、「大学と保護者との連絡会」の共催といった従来からの事業等を継続して参りました。講義も4月からは原則対面授業となり、5月には体育祭を実施し、6月には本学初のハイブリッドによる横浜祭を開催しました。徐々にではありますが、従来のキャンパスライフを取り戻しつつあります。

また、新たな取り組みとして、コンビニでの証明書発行サービス

導入に対する援助に関して、評議員会にてご承認いただく運びとなりました。必要ときに大学発行の証明書を24時間365日ネットで申請してコンビニで受け取ることができるようになります。後援会としましては、今後も学生の皆様に充実したキャンパスライフを取り戻していただけるよう様々な企画を準備しております。

今年度も引き続き、会員の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学生部長(後援会事務局長) 理工学部 自然科学科 教授
飯島 正徳

